

# いち・にの・さんしん

原三信病院 広報誌

September 2002 NO.1

病人のための病院

病院理念



作品:写真部提供(田中満行「ひまわり」)

質の高い医療  
居心地の良い環境  
心のこもったサービス

病院基本方針

原三信病院広報誌  
第一号発刊にあたって

院長 平 祐二

原三信病院は明治十二年六月十二日に十二代原三信によって当地に病院を開設して以来、百二十二年を迎えました。その間、常に地域に密着した民間病院として、「病人のための病院」を理念に医療を展開してきました。この年月、原三信病院が継続できているのは、患者様各位のご理解とご厚情の賜であると心から感謝申し上げます。さて、二十一世紀を迎え、種々の情報公開が進んでいます。原三信病院としても、当院の持つ機能や特色についての情報や、手術・治療などの成績などについて、できるだけ正確に公開したいと考えて病院広報誌を発刊することといたしました。皆様のお役に立てれば幸いです。原三信病院としては、これからも公的医療機関とは一味違った小回りのきく、地域に密着した病院として、その役割を果たしていきたいと考えています。皆様からの御指導御鞭撻を心からお願ひ申し上げます。



診療科	時間	月	火	水	木	金	土
内科	午前	原 直彦(呼吸) 有山 巖(総診) 林 靖生(循環) 杉本理恵(消化) 金山兼司(消化) 今村美菜子(糖尿)	上田良輝(感染) 澤山泰典(総診) 平 祐二(循環) 酒井健二(消化) 上村智彦(血液) 川口達夫(健診)	原 直彦(呼吸) 澤山泰典(総診) 蓑田俊二(消化) 田中絵里子(循環) 上田良輝(感染) 今村美菜子(糖尿)	林 真(血液) 有山 巖(総診) 奥村雄三(感染) 原 直彦(呼吸) 板谷良一(循環) 西島慎二(消化) 非常勤(1)	田中絵里子(循環) 大田黒 滋(総診) 平 祐二(循環) 奥村雄三(感染) 金子由美(呼吸) 福元 仁(消化)	交替
	午後	蓑田俊二(消化) 弘永 潔(循環) 上田良輝(感染) 寺田憲司(香椎)	林 真(血液) 弘永 潔(循環) 柏木 稔(腎臓) 奥村雄三(感染)	板谷良一(循環) 柏木 稔(腎臓) 杉本理恵(消化) 非常勤(1)	原 直彦(呼吸) 今村美菜子(糖尿) 金山兼司(消化) 非常勤(1)	林 靖生(循環) 林 真(血液) 上村智彦(血液) 非常勤(1)	
外科	午前	廣田伊千夫 北田秀久	江口 徹 当間宏樹	廣田伊千夫 田邊麗子	成富義幸 植木理夫	江口 徹 北田秀久	交替
	午後	江口 徹	植木理夫	当間宏樹	廣田伊千夫	田邊麗子	
整形外科	午前	高島一雄 出口伸治	酒井健次	宮本敬士 出口伸治	高島一雄	宮本敬士 出口伸治	交替
	午後	酒井健次 (出口伸治)	宮本敬士	高島一雄 (出口伸治)	酒井健次	九大	
脳神経外科	午前	町 多賀雄		町 多賀雄		町 多賀雄	
泌尿器科	午前	山口秋人 小松 潔 中尾孝子 交替	武井実根雄 野間秀哉 宮崎 薫 相島真奈美	山口秋人 小松 潔 上領頼之 交替	小松 潔 宮崎 薫 北城守文 峯田かおり	武井実根雄 北城守文 志賀健一郎 交替	交替
	午後	野間秀哉 峯田かおり 上領頼之	北城守文 中尾孝子 武井実根雄(ED) 小松 潔(MI)	武井実根雄 相島真奈美 交替	野間秀哉 非常勤(2)	宮崎 薫 小松 潔(MI) 非常勤(2)	
産婦人科	午前	山名寛孝 舟越邦明 永田 治(不妊)	舟越邦明 山名寛孝 永田 治(不妊)	山名寛孝 舟越邦明 永田 治(不妊)	山名寛孝 舟越邦明 永田 治(不妊)	舟越邦明 山名寛孝 永田 治(不妊)	交替 九大
	午後	九大	交替	九大	交替 永田 治(不妊)	九大	
歯科	午前	田籠祥子	田籠祥子	田籠祥子	田籠祥子	田籠祥子	
	午後	田籠祥子	歯科へ問合せ	田籠祥子	田籠祥子	田籠祥子	
健康管理センター	午前	川口達大 宮城康子 非常勤	原 直彦 中村清子 宮城康子	川口達大 中村清子 宮城康子	川口達大 中村清子 非常勤	川口達大 中村清子 宮城康子	非常勤 交替
	午後(1泊)	原 直彦 宮城康子	原 直彦 宮城康子	川口達大 中村清子	川口達大 中村清子	非常勤	

下線:新患担当 (総診)総合診療科(感染)感染症免疫(健診)健康管理センター(ED)性機能障害専門外来(MI)不妊外来(数字)人数

救急指定 開放型病院

## 原三信病院

福岡市博多区大博町1-8  
TEL 092(291)3434  
FAX 092(291)3424  
URL <http://www.harasanshin.or.jp>  
Eメール [webmaster@harasanshin.or.jp](mailto:webmaster@harasanshin.or.jp)



### 診療時間

月~金曜日 9:00~13:00 14:00~17:00  
土曜日 9:00~13:00

日・祝祭日はお休みです。但し、急患は、救急外来にて診察いたします。

### 診療科目

総合診療科・循環器科・消化器科・呼吸器科・感染症免疫科・  
糖尿病科・血液内科・腎臓内科・外科・整形外科・脳神経外科・  
泌尿器科・産婦人科・放射線科・麻酔科・臨床病理科・歯科・人間ドック

病院にゆす

総合診療科開設

平成十四年四月一日開設

近年、医学の進歩によって医療の専門化、細分化傾向が強くなり、内科だけでも臓器別に診療科が分けられるようになりました。

しかし、一方で一人の患者に対し、より総合的に診療する必要も生じてきています。その目的のために総合診療科を開設することになりました。

当病院の総合診療科では、専門別に分かれた内科各診療科との連携をとりつつ、また、かかりつけ医の先生方とも連携し、それぞれの患者様に対し全人的な診療を行っていきます。

具体的には、左記の患者様を対象と考えております。

受診する診療科の判断に迷う初診患者

疾患の臓器を特定できない患者

(不明熱・リンパ節腫脹・頭痛・めまい・胸痛・腹痛など)

「高脂血症」「高血圧」「糖尿病」などの生活習慣病を有する患者

時間内救急患者(救急車搬送)の対応 及び時間外救急からの即入院患者への対応(専門診療科への振り分け等)

脳梗塞急性期の患者

総合診療科 澤山 泰典

**澤山 泰典**  
総合診療科 医長  
外来 火・水曜日午前中

**有山 巖**  
総合診療科 医師  
外来 月・木曜日午前中

**大田 黒 滋**  
総合診療科 医師  
外来 金曜日午前中

職場紹介コーナー  
医療連携室編

最近「医療連携」という言葉を見聞きする機会が増えていると思います。この医療連携とは細分化された医療機関(病院・医院・クリニック・介護保険施設等)において患者様を中心に考え、患者様がよりよい医療をよりよい環境で円滑に安心して受けて頂けるように各医療機関をつなぐことを言います。この「つなぐ」というパイプ役を医療連携室は担っています。

医療連携室は平成十一年七月に新設されたまだ新しい部署で、現在診療部の原副院長、事務次長の大谷(衛藤)小柳(医療相談課兼務)・北尾(同)の五名で業務にあたっています。主な業務は、紹介患者様の登録、紹介元への報告書確認、紹介患者様の受診・受療援助、周辺医療機関に対する当院の各種案内、当院患者様の他院への紹介、周辺医療機関からの問い合わせ窓口、開放型登録医の先生方の窓口等です。医療連携室は九月から一階の正面玄関より入って正面の一番目立つ場所に移動し、更に患者様とも接しやすくなりました。そのような中で今後も地域の医療機関とのスムーズな連携、患者様によりよい医療を提供できる環境作りを目標として日々活動していきます。医療連携や医療相談等でお問い合わせのあるときは医療連携室までお気軽にお声を掛けてください。

医療相談室  
北尾 貞和



日帰り手術センターだより

当院では、平成十年四月から日帰り手術をスタートし、同年十一月、手術室と直結した6床の「日帰り手術センター」を開設しました。これまでに、2500人以上の方々に「センター」を利用していただきました。体への負担の少ない内視鏡下手術や衝撃波治療、レーザー治療などを早くから導入し、その技術を高めて来た成果だと思われれます。米国では入院医療費がとて高額なため、手術の約八割が「日帰り」で行われております。日本でも、来年度から自己負担金額が予定されております。

通常の入院治療に比べて、2割から5割も安い「日帰り手術」は今後ますます意義を持つ治療と考えます。

まだまだ、「日帰り手術」に不安をもたれる方が多いようですが、入院が予定より伸びた方は、全体の1%以下です。また、退院後に緊急入院をされた方は0.3%しかいらっしゃいません。

最近、「日帰り手術」を体験された方々のクチコミによって、患者様自身が日帰り手術を希望される場合も増えてまいりました。仕事や生活上の理由から手術に踏み切れず、辛い思いを我慢していらっしゃる人でも、

医学雑学講座  
虚血性心臓病について

本日は、虚血性心臓病についてのお話です。

心臓には、冠動脈と言う心臓自体に血液を送る血管があります。虚血性心臓病は、狭心症や心筋梗塞に代表され、この冠動脈が狭くなったり、閉塞したりする病気です。狭心症の場合、労作時に起こるものと、安静時に起こるものがあります。前者を労作性狭心症と言います。後者を安静時狭心症と言います。

今回は、特に労作性狭心症の場合についてお話ししましょう。まず、どういふ方が、なりやすいかと言え、ご家族で虚血性心臓病の方がいらっしゃる方(家族歴)、高血圧、糖尿病、コレステロールの高い方、喫煙者などで冠危険因子と言います。この冠危険因子を持つ方は、動脈硬化(図1)が起こりやすく、このため、冠動脈が狭くなりやすいのです。主な症状としては、布団の上げ下げ、坂道や階段を上った時、重い荷物を持った時などに胸が圧迫するよう感じ、胸が重い感じ、胸が締め付けられるような感じがあります。時には左の背中や、肩の方へ痛みが放散したり、中には、あごが締め付けたり、歯が浮いたりするような感じを伴うことがあります。



これらの症状は、じつと安静にすると速やかにおさまってきます。こういった症状が、ありましたら、循環器科のあるクリニックまたは、病院に受診してください。

「日帰り手術」なら日常生活のリズムをかえることはありません。入院費も安く、仕事や家庭に早く復帰できます。

外科部長、日帰り手術センター長  
江口 徹



日帰り手術の術式別件数

(98年4月～02年3月)

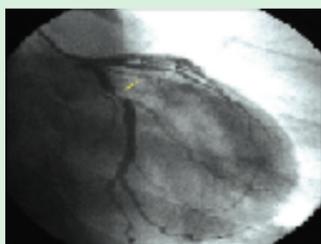


図2  
逆閉経前の女性の方や、40歳以下で冠動脈危険因子の無い方は、一般に、動脈硬化はそれ程心配しなくて良い方が多いです。運動負荷直後の心電図が非常に有効な検査で、一般の健康診断で行われている安静時の心電図では、診断がつかないことが多いのです。

この、運動負荷テストの精度をさらに向上させたものとして、心筋シンチグラム(RI検査)があります。これらの検査で、狭心症の診断がついた場合、次は、ご自身に最も適切な治療方法を定める上で、心臓カテーテル検査が必要となります。冠動脈造影(図2)を行うことにより、冠動脈のどの部位にどれだけの狭窄があるかわかります。これにより、薬物療法、経皮的冠動脈形成術、冠動脈バイパス術のどれが良いか、各個人に最も適した治療を選択できます。

当院では、この心臓カテーテル検査の約70%は、手首の動脈(橈骨動脈)から行っております。また、日帰りでも行っております。造影剤を使用しますので、日帰りで行う場合、腎機能が正常な患者さんを対象に行っております。

循環器科 弘永 潔



薬のママ知識  
「薬を飲む時間」のワケ

薬を決められた時間に飲むことには理由があります。薬を飲む間隔を開けずに飲むと、血中濃度が必要以上に高くなり、また間隔を開け過ぎると血中濃度が低くなり持続的な十分な効果が期待できなくなります。治療に必要な血中濃度を保つためには決められた時間に決められた量を飲むことが必要なのです。

- 食前** 食事をとる10～30分前
- 食後** 食事の後30分くらいの間
- 食直後** 食事が終わったらすぐに
- 時間毎に** 食事に関係なく一定の間隔で
- 頓服** 疼痛時、不眠時など必要に応じて

薬を水なしで飲むと、薬が食道に引っかかり粘膜を荒らし、炎症を起こしたり、潰瘍ができることがあります。胃の中で薬が速やかに溶けるためにも水分が必要です。また、ぬるめの白湯で飲むと、胃の温度を下げないので胃の活動が妨げられず、吸収が早くなります。

最近では水なしで飲むことのできる薬もあります。

薬剤科

編集後記

ようやく、広報誌第一号を発行することができました。しかし、まだまだ内容、構成など手探りの状態ですが、今後、より一層充実した誌面づくりに広報委員一同努力していきたいと思っております。

広報委員会委員長 原 直彦